

# 好業績なのに、株が売られるのはなぜ？

text by Akio Tanaka

文 田中 晶雄

米中間の通商交渉は、解決の糸口が見えず。5月後半から、トランプ大統領が仕掛ける貿易戦争の矛先が、中国だけでなく、日本、欧州、カナダ、メキシコにも向き始めたことが警戒されている点。またイタリヤは、なんとか連立政権を発足されるめどが立ち、政局不安はやや低下したものの、ポピュリズム政党が主導して、反EU・反緊縮の動きを強める間、政局不安が続く可能性がある点。貿易戦争の不安・イタリヤ政局不安・新興国通貨急落に伴う不安などが絡み、「リスクオフの円高」（世界的に不安が高まったときに安全資産として「円」が買われること）が進んでいる点。今年の日経平均の動きを見ると、円高が進むと日経平均は下がっている。6月はFOMCにおける利上げが確実視されていること、米朝首脳会談が実現することなど、株式市場に好感される要因もこれから控えているが、まだまだ警戒が必要である。

そんな市況の中、決算発表シーズンが幕を閉じた。決算発表を行った企業の株価

の動きをみると、好業績なのに売られる、あるいは大赤字なのに買われる、というケースも目立っている。特に初心者、初級者の個人投資家にとっては「なぜ？」と不思議に思うかもしれないが、株価は業績が良いから上がる、業績が悪ければ下がる、という単純なものではない。

決算発表前については株価は、市場参加者が「だいたいこのくらいの業績になるだろう」と予想した結果のものである。したがって、いくら大幅な増収増益の決算だとしても、市場参加者の予想を下回れば大きく売られることになり、大赤字の決算であっても、市場参加者の予想より赤字額が少なければ株価は上昇する。つまり、「市場コンセンサス」に比べて発表された決算数値が上振れていれば株価上昇要因、下振れていれば株価下落要因となる。

そんな中、好業績見直しにもかかわらず十分株価に織り込まれず割安放置されたままの「お宝」に出くわせば儲けものだ。株価上昇という果実が得られるのは、数カ月先の次の四半期決算発表が近づいてからかもしれない。

ないが、動意づく前に拾っておきたい。しかしお宝探しにはそれなりの労力がいる。情報源は、気になる会社の決算説明会、及び「IRコーナー」にアップされた決算説明資料である。決算と合わせて中期経営計画を発表する場合もあるので、機関投資家の多くは目を皿にして分析している。最近は説明会のもようを収録したライブ映像も充実してきた。説明者は基本的には社長自ら行う。どんなトップが会社を率いているのか人骨柄も投資判断の材料。より分析力に深みとコクが出てくることは間違いない。



## Profile

平成3年2月26日生まれ

慶應義塾大学経済学部卒業後、外資系証券投資銀行部を経て、株式会社HALXAS Capital等を創業。日本株のトレーディングや資金調達、M&Aのコンサルティングを手がける。趣味は野球と低位株投資。